そうじの力だより

VOL.213

支援事例紹介

物の整理は頭の整理
～社長の、徹底的に「捨てる」個人レッスン～

二つの会社を経営するE社長から私に支援のオファーがあったのは、昨年の四月でした。

E社長は整理整頓が苦手とのこと。全社を挙げて環境整備に取り組みたいのだけれども、今はそれが叶わない。なぜならば、会社の業績があまりよくないので、経費から指導料を捻出することに、奥さんと娘さんが反対しているから、とのことでした。

それでも、どうしても私の指導を受けたいとおっしゃるので、例外として、社長ご自身の個人レッスンをお引き受けすることにしました。

はじめて訪問し、E社長の執務デスクの周りを見てみると、意外にもスッキリとしています。

しかし、よく見てみると、いわゆるファイルボックスがたくさん並んでいます。デスクの上に七～八個、足下に十数個、そして背後のキャビネに何十個ものファイルボックスが並んでおり、その中に、さまざまな書類や物品が無秩序に詰め込まれているのです。

ファイルボックスの山（ビフォア）

これでは、どこに何があるのかがわからず、毎回、何かを取り出そうとする際には、あちこちを探し回り、かなりの時間がかかるそうです。

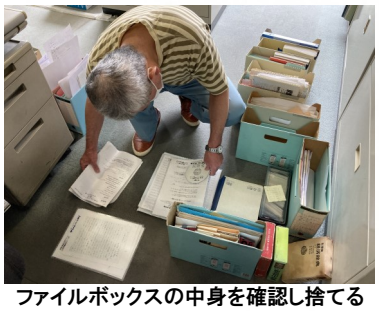
E社長の特徴は、あれもこれもと、いろいろなことに手を出しすぎること。これまでも、ご自身がさまざまな研修に参加するとともに、会社全体としてもいろいろな分野のコンサルタントの指導を受けてきたといいます。

しかし残念ながら、実を結んだものは少なく、それらが生かされて会社がよくなっていってはいない、とのこと。

要するに、あちこちに手を拡げすぎて、本来集中すべきことに集中できていない、ということでしょう。その結果として、モノが増えて、収拾がつかなくなっているものと思われます。

E社長がすべきことは、ずばり「捨てる」こと。自分にとってさほど重要でないものをどんどん捨てていくことで、自分が本当に大切にすべきことが見えてくるはずです。

ということで、毎回のレッスンでは、ずらりと並んだファイルボックスを一個ずつ、中身を



ファイルボックスの中身を確認し捨てる

いったん全部出して、一つひとつその内容を確認しながら、不要なものを捨てていってもらいました。

ファイルボックスの中は、関係先のニュースレター、業界団体発行の情報誌、研修会社からのセミナーのチラシ、交換した名刺、出張時に旅先で得た観光地のパンフレットや地図など、およそ、重要とは思われないものが多数を占めています。

そうしたものを、どんどん捨てていき、必要なものだけを、ファイルボックスに戻していきます。やるたびに、ファイルボックスの数が減っていきます。

名刺も、不要なものは捨てていく

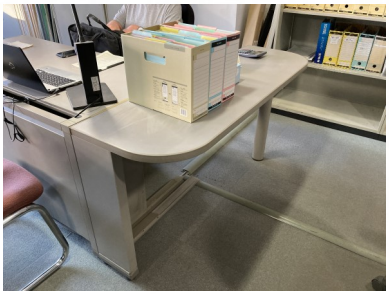
そうしたプロセスの中で、経営にとって不可欠な書類は、試算表や売り上げ見込み表、顧客名簿、そして現在進行形の提案書など、わずかである、ということが、E社長の中で明確になってきたようです。

それに伴い、これまでのようにあれこれと手を出すのをやめ、社長が行うべきアクションを極限まで絞ることにしました。最終的にE社長が定義した自分の仕事は、「社長自身の営業」「環境整備」「経営計画書」の三つでした。

同時に、他県にあった営業所を閉鎖し、二つあった会社を統合して一つにもしました。今年は、同社にとって「改革元年」です。

約半年間の個人レッスンを経て、E社長が語ってくれた現在の心境です。

デスク周り（ビフォア）



デスク周り（アフター）

「毎日、会社に行くのが楽しくなりました。その日にやるべきことが明確で、迷いがありません。以前は時々、会社に行きたくない日もありました。今は、会社の進むべき方向性がはっきりしているので、絶対に業績をよくするという自信があります。」

エネルギッシュで明るく、人懐っこいE社長が、経営者としての自信を取り戻してくれたことは、お手伝いする私にとって大きな喜びです。

（小早）

オンラインでの研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。

このニュースレターは、転送、引用、大歓迎です！その際には、出典を明記していただけるとありがたいです。

そうじの力 コラム

一人の小さな勇気と根気が、世の中を変えてゆく
～『半日村』の一平にあこがれて～

“そうじ”をして会社を良くしよう、と言うと、多くの人は、「それは良いことだ」と言います。でも、実際に取り組む人は、実は多くありません。

だから、この“そうじ”を通じた組織風土改革の取り組みを世の中に広めていくためには、勇気が要ります。諦めずに続けていく覚悟が必要です。

そんなときに、私たちに希望を与えてくれるのが、斎藤隆介：作、滝平二郎：絵の『半日村』という童話です。

あらすじをご紹介します。

ある村は、東側に高い山があって、なかなか日が昇りません。

お昼ごろになってようやく日が昇るので、半日しか日が当たらず、『半日村』と呼ばれています。

そのため、農作物は育たず、村人たちは皆やせて、蒼い顔をして、元気がありません。

父母の困っている姿を見た少年、一平は、翌日から行動を開始します。

一平の取った行動。それは、東側に立っている山に登り、頂上の土を削って袋に詰め、それを持って降りてきて、その土を湖にあける、というものでした。

来る日も来る日も、それを続けます。

一平の姿を見た人たちは、子どもも大人も、最初はバカにしていました。

「山がうごかせるもんじゃねえ。みずうみをうめられるもんじゃねえ」と。

しかし、まず子どもたちが一緒にやりはじめます。

一平の姿を見て、なんだか面白そうな気がしてきたからです。

次に、大人たちが手伝いはじめます。

一人二人が手伝いだすと、三人四人。三人四人がやりはじめると、五人六人。

ついには、村中の人たちが、来る日も来る日も山に登って、土を運んで降りるようになります。

そうして、何年も何年も経ちます。

当時の大人は死に、一平たちも大人になりました。

ある日、にわとりが鳴くと同時に、半日村に日が差しました。

ついに、山が低くなり、朝に日が差すようになったのです。

それから村は、『一日村』と呼ばれるようになったのです。

私たち一人ひとりが、一平になることで、世の中が変わっていくのです。（小早）

ツイッターで、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！

編集後記

仁義なき戦い

芝生が貼られたわが家の庭の所々にボコッと盛り上がっているのは、モグラ塚です。

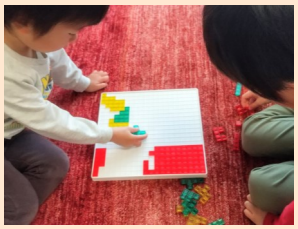
モグラの忌避剤を投入すると、しばらくはおとなしくなりますが、またボコッと出てきます。

やってもやってもキリがありません。実は、モグラというのは鳥獣保護法によって殺処分が禁止されているため、敷地から出ていってもらうしか手はないのです。

最後の手段として、駆除業者に依頼して、庭の全面に薬剤注入をしてもらいました。今のところ、効いているようですが、いつまたボコッとくるか・・・。（小早）

飛鳥のつぶやき

目指せ奨励会？



次男氏3歳になり、少しずつルールあるゲームができるようになってきたため、ボードゲーム「ブロックス」を買いました。

4色のピースを順番に置いていき、最も置けた人が勝つ陣取りゲームなのですが、5歳長男のピースの置き方のうまいことうまいこと。

あらゆる手でこちらの逃げ道を塞いではニヤリ(￣▽￣)

こ…これは、もしかして将棋とか好きになったら大成するやつなのでは…？(*゜д゜*)ﾄﾞｷﾄﾞｷ(親バカ)　（大槻）

株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は“そうじ＝環境整備”を通じた「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。（全国対応）

そうじの力だより第213号　2023(令和5)年4月1日発行　発行者：小早 祥一郎（株式会社そうじの力 代表取締役）
〒370-0078 群馬県高崎市上小鳥町307-1 TEL:050-3709-2333 FAX：050-6868-2721 メール：info@soujinochikara.com

このニュースレターは、転送、引用、大歓迎です！その際には、出典を明記していただけるとありがたいです。